

平成 27 年 10 月 13 日

6 年生保護者 様

平成 27 年度 全国学力・学習状況調査結果について

玉城町立下外城田小学校

4 月 21 日に実施した全国学力・学習状況調査につきまして、本校 6 年生の結果分析をまとめました。本結果を今後の教育活動の指針の一つとして、成果は継続して伸ばし、課題については改善に向けた取り組みを進めてまいります。また、三重県の学力向上アドバイザーにも学力傾向を分析していただき、指導に活かしていきます。ご家庭でも参考にいただければと思います。

国語

① A 問題（主として知識に関する問題）

出題内容は、漢字の読み書き・文の型（主語述語）・読取（説明文・新聞コラム・物語・作品募集案内）等でした。全体的に全国平均を上回る正答率でした。

- 漢字の読み書き・説明文や作品募集案内の読取
- △ 文の主語と述語の関係を捉える・新聞コラムの読取

《今後》

漢字の読み書きについては、高い正答率があったことから、これまでの学習を継続していきます。家庭での学習も大切だと考えます。ご協力をお願いします。

文章の読取では、説明文や物語文といった日常的に学習の機会が多いものについては、良い結果だったことから、幅広い文章にふれる学習を行っていく必要があると考えます。

② B 問題（主として活用に関する問題）

出題内容は、新聞紙面構成や目的に応じた的確な文を書くこと、説明文を読み取り要旨をまとめて文章で表すこと、物語を読み取り場面の移り変わりを捉えたり音読の工夫やその理由を書いたりするものでした。全体的に全国平均を上回る正答率でした。

- 文章の要旨をまとめて書く 文章と図を関連付けて考えをかく 音読の工夫とその理由を書く
- △ 新聞記事の割り付けをする 取材内容を整理しながら記事を書く

《今後》

国語 B においては、記述式の問題が多く、また何を答えるかの問いの記述までの前段の文が大変長く、回答が困難な内容です。難しくてもあきらめない、根気強く読み取る姿勢を養っていく必要があります。その意味から、無回答の割合が大変低く、子ども達のがんばりがうかがえました。今後も、挑戦することの大切さを伝えながら、長文の読解の経験を積み、学力として求められる力をつけていきたいと考えます。

算数

① A問題（主として知識に関する問題）

出題内容は、小数や分数の加法や除法などの基本計算から始まり、時間の計算・分度器の使い方や三角形の条件、見取図から展開図や辺の関係理解、グラフの読取や数量関係と図を関連づけるといった内容でした。全体的に全国平均を上回る正答率でした。

- 計算技能やその意味の理解 見取図から展開図や辺を捉える
- △ 分数の割り算 時刻・時間の計算 二等辺三角形の意味理解

《今後》

割合の理解に課題があるという認識のもと、復習を重ねて調査に臨みましたが、それに関する問題がなく、理解の伸び具合が確認できませんでした。

分数の割り算を除いては計算問題の正答率が高く、ドリル学習の成果が出ています。図形の内容を正しく理解していないことが推察できることから、図形の算数用語を正しく理解させると共に説明にも用語を使う習慣をつけていきたいと考えます。

② B問題（主として活用に関する問題）

出題内容は、平行四辺形の特徴を活用して地図上の道のりを考えたり、地形の特徴を記述したりする問題、バック入り商品や割引率を考えて有効な買い物の仕方を考える問題、三角形の概念とそれを使った図の描き方の問題、およその数を使って数の数え方を説明する問題、長方形を組み合わせた図を等分した場合の面積について考えたり説明したりする問題でした。全体的に全国平均を大きく上回る正答率でした。

- 平行四辺形の概念の活用 正三角形や合同な三角形の性質の活用
- △ 割合の活用 概数の活用

《今後》

「割合」を活用した複雑な問題は、全国的傾向と同じで正答率の低さがあったことから、割合の意味理解に力を入れると共に、それを活用した問題への取組を継続していく必要があります。A問題で課題があった図形の内容の活用については、B問題では比較的正答率が高く、これからも性質を活用した問題を解く経験を積ませていきます。

理科

理科の問題は、A・Bの区別がなく、知識と活用が一体となった内容でした。ふりこやその錘に使用する金属に関するもの、電磁石に関するもの、メダカやインゲンマメ及び人等の成長に関するもの、水の変化や熱の伝わり方及び物が溶ける量に関するもの、星座や月に関するもの等でした。問題の量が多く、実験観察器具の名称を問う問題もあり、実験や観察の経験を重視する内容でもありました。全体的に三重県平均と同じ正答率でした。

- 植物の栽培場所を日光の当たり方によって考えること
- 顕微鏡の操作方法
- △ ふりこの規則性を理解し、進み過ぎを調整すること
- △ 電磁石を使ったふりこで、巻き方や乾電池の数で正しくふれるようにする方法
- △ 生物の成長での養分のとり方の考察の分析

《今後》

実験や観察を大切にしなければならない問題内容でした。特に、実験や観察方法において、子どもの考えを生かしていくことを大切にしていきます。実験手順や使用する器具名を問う問題もあったことから、授業では、指導や話し合い活動において正式な名称を用いるようにしていかなければなりません。

学習状況（児童質問用紙）

（1）良好なこと

- ① 食生活を含めた生活リズムができている子の割合が多いこと。
- ② 考えを話したり聞いたりする活動を十分にしていると思っている子の割合が多いこと。
- ③ テレビ等の視聴時間、ゲームやメール及びインターネット使用時間が比較的少ないこと。
- ④ 宿題を家でする子の割合が多く、図書館の利用回数や読書時間が比較的多いこと。
- ⑤ 学校が楽しいと思う子の割合が多いこと。
- ⑥ 学級会で話し合っ決めて決まりなどを定める活動を行っていると思う子の割合が多いこと。
- ⑦ 学校決まりを守っていると思う子の割合が多いこと。
- ⑧ 人の役に立ちたいと思う子の割合が多いこと。
- ⑨ 総合学習や他の教科学習での調べ学習やその発表をする機会があると思っている子が多いこと。
- ⑩ めあてが示された授業や振り返りの活動を行っていると思う子の割合が多いこと。
- ⑪ 今回の調査で難しい問題を最後まで解答を書こうとした子の割合が多いこと。

（2）課題と考えられること

- ① 自己達成感・チャレンジ精神・自己肯定感において肯定的な考えをする子の割合が比較的少ないこと。
- ② 家庭学習や休日の学習（塾を含む）時間が少ないこと。
- ③ 家での計画立てた勉強時間が少ないこと。
- ④ 地域や社会を良くするための自分たちの行動について考える子の割合が少ないこと。
- ⑤ 理科や科学技術に関係する職業につきたいと考える子の割合が少ないこと。

実践状況（学校質問用紙）

（1）良好なこと

- ① 授業中の私語が少なく、落ち着いた雰囲気があること。
- ② 授業にめあてや振り返りの活動を取り入れていること。
- ③ 学級やグループで話し合う活動を授業に取り入れることに力を入れたこと。
- ④ 一人一人の良さや可能性を見つけ積極的に評価したこと。

（2）課題と考えられること

- ① 算数以外でのコンピュータ等の情報通信機器を活用する機会が少ないこと。
- ② 家庭学習について十分に共通理解を図ることができていないこと。
- ③ 外部人材を積極的に活用した授業が少ないこと。
- ④ 算数以外でT Tによる指導ができていないこと。